

停車場と反対の方角へ向けて二三丁駆けると息切れがした。

後を見ると二人の巡査が、まじめに追つ駆けて來てゐる。

新吉は滑稽だつた。

何うせかなはないのだ。

直ぐ後手を掴まれて、元の警察へ逆送された。

それから留置場の中へ蹴込まれて、錠を下ろされるまでに、散々擲られたのだつた。

一週間の保護生活が其處で初まつたのだ。

天井が高くて、花岡岩の便所も其の留置場にはしつらへてあつた。

割合新らしくて靜かで氣持は好かつた。

でも何日此の留置場から出られるのかさつぱり見當は付かなかつた。

帯解き擴げで寒いのに布團は一枚だつた。

握りめしを三つと、肥料にするやうな魚を二尾と、黒い煮豆と、新聞紙に包んで小使ひが格子の穴へ置いて行く。